

(様式 1)

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」実績報告書(1年次)

1 学校名等

学 校 名	向日市立西ノ岡中学校				校長名	岡本 英明
研 究 主 題	生涯にわたり学び続ける生徒の育成 ～他者と協働して課題解決に挑む～					
研究の目的	課題解決型学習を通して「自ら課題を解決する姿勢」や「自主的、自律的、計画的に学習に取り組む力」を育成し、資質・能力の向上を目指す。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	3	4	4	3	14	31
生 徒 数	109	129	122	17	377	※校長・教頭を含む

2 研究校の概要

(1) 生徒の実態

本校は、ここ数年、校内での暴力行為や器物損壊等の問題事象は減少しているが、不登校や人間関係のトラブルは増加傾向にある。これらの課題を解決するためにも、すべての教育活動を通して生徒の居場所づくり、あたたかな関係づくりの視点が欠かせないものとなっている。そして仲間とともに協力して課題を乗り越えていく経験は自信となり、未知の世界へのさらなる一歩へとつながると考える。

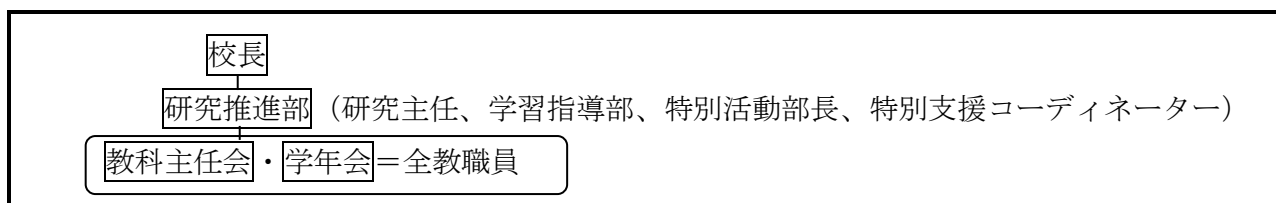
また、全国学力・学習状況調査や令和3年度版京都府学力診断テスト等の質問紙調査の結果から、本校の生徒は「自ら課題を解決する姿勢」や「自主的、自律的、計画的に学習に取り組む力」に課題が見られる。これらは、これからの社会を生きていくために必要な資質・能力であることから、課題解決型学習の推進を柱に、生徒の意欲・関心の向上や主体的に取り組もうとする態度の育成を目指したい。

(2) 学力状況等

本校においては、学級の集団づくり・人間関係づくりを土台として、授業の中で、効果的な話し合い活動(グループ、ペア)を実践し、他者の考えを聞き、自分の考えを伝える取組を進め、課題解決型学習の充実を図るとともに、授業改善を図ることを目指している。土台となる集団作りにおいては、生徒の集団での学びの状況を図る視点として令和3年度から hyper-QU 検査に取り組んでおり、今年度は6月と11月に実施し生徒状況を把握した。

Hyper-QU 検査は向日市において取り組んでいる標準学力検査 CRT と連携しており、学校生活と学力の両面の支援レベルの把握ができ、生徒の話し合い活動を伴う課題解決型学習を取り入れた授業の研究を進める一助となると考えている。今年度の結果としては、生徒の主体性を生かした自由度の高いレベルに達している A 又は B レベルの生徒の比率が6月から12月にかけて3学年においては6ポイント、2学年においては5ポイント、1学年においては6.6ポイントの向上が見られた。この結果は1年間を通して、「集団づくり」と「話し合い活動の充実」に取り組んできた成果が一定現れたのではと考えている。

(3) 研究体制



3 主な研究活動

- 8月24日キャリア教育コーディネーター小寺氏を講師とした課題解決型学習を通じた総合的な学習の時間の校内研修



小寺コーディネーターによる説明



総合的な学習の時間の計画立案のワークショップ



- 8月25日QU分析についての校内研修



立命館大学井戸教授による hyper-QU 検査
についての説明



各担任の hyper-QU 検査の見立てについてのワークショップ



- 総合的な学習の時間

チャレンジコンテストに向けた課題解決型学習を踏まえた話し合い活動や発表



課題について調べる



調べたことをまとめる



調べたことを発表

- 11月18日(株)美濃吉の講演会を実施



- 1月31日 公開授業

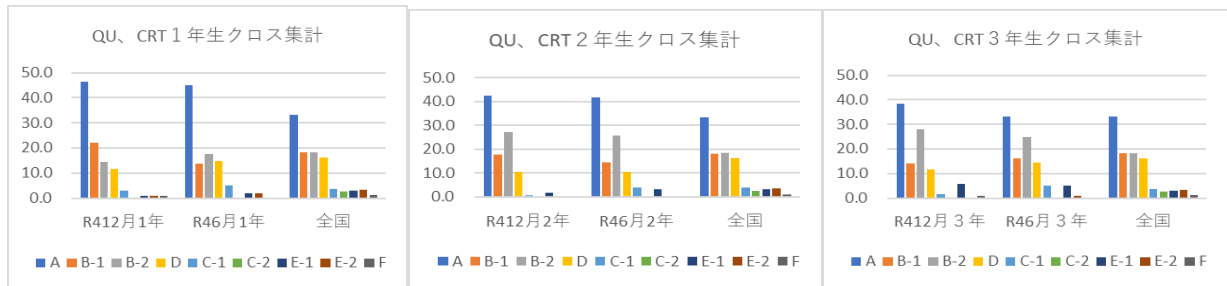
課題解決型学習に繋がる「話し合い活動」を取り入れた授業の充実



4 今年度の研究の成果と検証

- (1) (株)美濃吉から「新しい和食の在り方を創造して、和食文化を広めてください」という問いを受け、生徒たちは「正解のない問い」に対して総合的な学習の時間等で解決に向けて自ら進んで学習に粘り強く取り組んだ。また、「調べ学習」や「話し合い」「根拠をもとに発表する」などの取組が総合的な学習の時間だけでなく、普段の各教科での話し合いや発表にも広がりを見せ、生徒のみならず、教師にも「課題解決型学習」への取組が浸透しつつある。
- (2) QU分析による学習意欲、集団づくりの意識調査

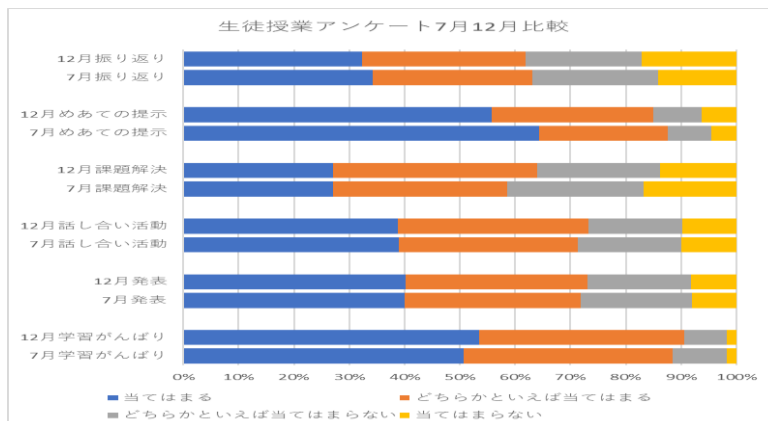
「2 研究校の概要」でも述べているが、hyper-QUとCRTの連携を生かした「学校生活」「学力」の両面から生徒の状況把握を継続してきた。1年間の取組を通じて「集団づくり」と話し合い活動を通じた学習への取組により、今年度の結果としては、生徒の主体性を生かした自由度の高いレベルに達しているA又はBレベルの生徒の比率が6月から12月にかけて3学年においては6ポイント、2学年においては5ポイント、1学年においては6.6ポイントの向上が見られた。



- (3) 令和3年度版京都府学力診断テストの質問紙を活用した調査

本校は生徒の話し合い活動を伴う課題解決型学習を取り入れた授業の研究をすすめており、今年度は京都府学力診断テストの質問紙を参考に生徒へ授業アンケートを実施し、「振り返り」「めあての提示」「課題解決型学習」「話し合い活動」「発表の機会の設定」「学習へのがんばり」に関する質問をすべての教科において、7月及び12月に実施した。下の表によると「課題解決」「話し合い活動」への肯定的な回答は7月に比べるとわずかであるが向上が見られる結果となった。

しかし、どちらも「当てはまる」と全肯定している値の変化はなく、特に課題解決型学習への全肯定的な意識を持つ生徒の率は30%以下であり、教師が意識して実践を図っていても生徒が課題解決型学習に取り組んでいるという意識は少なく、乖離がみられる結果となった。今後、生徒が自ら課題を見だし解決していると実感できる授業の工夫が望まれる。



5 今年度の課題

(1) 効果的な話し合い活動の実践と、課題解決型学習の充実

今年度取り組んでいる「集団づくり」と「話し合い活動の充実」に引き続き取り組み、学級の集団づくり・人間関係づくりを土台として、授業の中で、効果的な話し合い活動を実践し、課題解決型学習の研究を進め、教師の指導力の向上とともに、生徒の資質・能力の向上を図ってきたい。

(2) チャレンジコンテストへの取組の充実

今年度初めての取組であり、実施に当たっては、授業を実践する教師の研修や打ち合わせが不十分な状況でのスタートとなり、生徒が実際に取り組み始めることが遅れてしまった。次年度は今年度の経験を生かし、生徒が探究の過程を繰り返し取り組めるよう、計画的に取組を進めていきたい。その中で（株）美濃吉との連携もさらに進め、出前授業や講演などの充実も図ってきたい。

6 事業終了後の研究構想

(1) 令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～を活用し、生徒の「認知面」と「非認知面」の両面の調査結果を日頃、指導している教師の見立てと連携させ、「よりよい集団づくり」と「話し合い活動の充実」を柱とした授業改善を図るとともに学力向上を目指す。

(2) （株）美濃吉と連携した取組を充実させ、「課題解決型学習」の教師の実践力を向上させるとともに、生徒の「自ら課題を解決する能力」や「自主的、自律的、計画的に学習に取り組む力」の向上を図る。